

平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ホッケ

学名 *Pleurogrammus azonus*

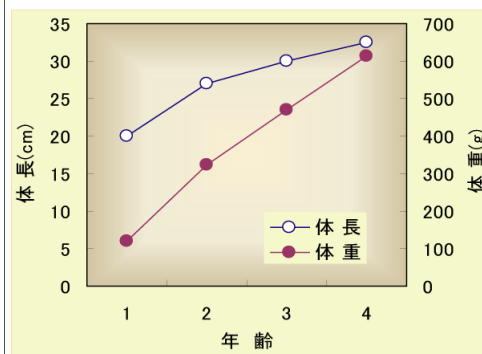
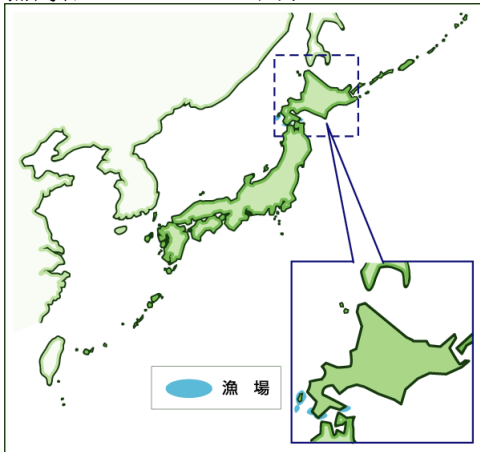
系群名 道南系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
成熟開始年齢: 1歳の終わり頃(満2歳直前)
産卵期・産卵場: 産卵期は11～12月、産卵場は北海道渡島半島西岸および奥尻島沿岸の岩礁域
索餌期・索餌場: 正確な索餌場は不明、分布域は、北海道渡島半島西岸～本州北部日本海および噴火湾～本州北部太平洋
食性: 仔魚期には主にカイアシ類、未成魚期にはヨコエビ類を多く捕食、岩礁周辺で定着生活に移行後は様々な種類の動物を捕食
捕食者: 不明

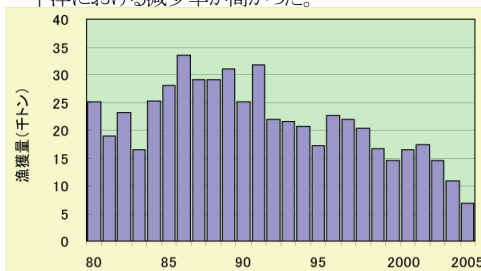


漁業の特徴

ホッケ道南系群は、当該海域の沿岸漁業(本州日本海では沖合底びき網漁業を含む)における主たる漁獲対象魚種の一つである。主に刺網、定置網、底建網、まき網、釣り、簗などではほぼ通年漁獲され、特に春季の索餌期と秋季の産卵期に漁獲量が増加する。

漁獲の動向

本系群の漁獲量は1980年代後半に30,000トン前後の高い値を示した後、1992年以降20,000トン前後まで低下し、さらに減少傾向は強まっている。2005年は10,000トンを下回り、6,755トンであった。海域別漁獲量では、特に、道南太平洋における減少率が高かった。



資源評価法

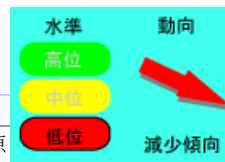
本系群のホッケの漁獲物は、そのほとんどが1歳と2歳で、漁獲物の年齢幅がせまく、コホート解析による資源量の推定に適していない。また、漁獲の大半は定置網や刺網などの沿岸漁業によるものであり、CPUEなど漁獲量以外の資源量の指標を得ることが困難である。そこで、漁獲量の変化から資源の動向を判断した。

資源状態

本海域における過去20年(1986～2005年)の漁獲量の平均値を50とし、35未満を低位、35以上65未満を中位、65以上を高位と設定した。2005年の漁獲量は6,755トンで16となったため、資源水準は低位と判断した。また、過去5年間(2001～2005年)の漁獲量は、有意な減少傾向が認められたため、動向は減少と判断した。

管理方策

漁獲量の変動が資源の動向を反映すると仮定し、過去20年間の漁獲量の平均値から資源の水準を判断した場合、2000年代の大半が低水準であると考えられる。2004～2005年の道南太平洋における定置網類の漁獲量の減少が最も大きかったが、努力量には変化が無かったことから(函館水試調べ)、本系群の資源量の低下の可能性も考えられる。そのため、近年の漁獲量の減少率を考慮して、ABClimitは、過去5年間の平均漁獲量に0.6を乗じて算出した。ABCTargetは、さらに0.8を乗じた漁獲量とした。



	2007年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	8千トン	0.6Cave5-yr	-	-
ABCTarget	6千トン	0.8・0.6Cave5-yr	-	-

資源評価のまとめ

- 漁獲物の年齢幅がせまく、コホート解析が困難
- CPUEを得ることが困難であるため、近年の漁獲量から資源評価を実施
- 過去20年間の漁獲量の推移から資源の水準を、また過去5年間の漁獲量の変化から動向を判断

管理方策のまとめ

- 1990年代以降、資源水準が低い状態にあり、2002年以降さらに資源水準は低下していると推定
 - 2004～2005年の道南太平洋における定置網類の漁獲量の減少は、資源量の低下による可能性もある
 - 漁獲量の減少率を考慮し、漁獲水準を低下させる
-